

Vol.53／夏季号

平成27(2015)年7月1日発行
(年3回7・11・2月発行)



日農工会報



- 🌻 新たな食料・農業・農村基本計画
- 🌻 ブラッセル出張報告
- 🌻 第54回従業員功労表彰受賞者一覧
- 🌻 新社長の紹介



表紙撮影 山本莉子さん

趣味は、身を助ける

フジイコーポレーション(株) 代表取締役 藤井 大 介



蝶々編

◆ エピソードⅠ

毎年リクルートの時期になると、「芸は身を助ける」という言葉を思い出さずにいられません。私の場合は「趣味は、身を助ける」が正しかったのですが…。

1982年初夏、会社訪問をしていました。希望職種は、金融それも国際金融でした。三年遅れのリクルート活動でしたので、当時の都市銀行(現メガバンク)には電話で門前払いされました。外銀と政府系の国際金融機関だけが、MBAに関心を持ってくれました。

趣味が身を助けたのは、実際に就職した政府系国際金融機関の最終試験でした。

その日の試験は、総務部長、理事の順に面接し、最後に人事課長面接がありました。人事課長から趣味を聞かれました。そこで私は、その当時趣味だった蝶々捕りについて長々と説明しました。

ベニヒカゲとクモマベニヒカゲの違い、蝶々採取にあたってその種の幼虫が食べる食草の分布を専門の地図で調べ、そこへ蝶々採取に行く事等。更に蝶々採取は早朝、理由は変温動物の為気温の低い朝は動きが鈍い等。

必死に説明していると、人事課長が一言。「夜の蝶々は捕らないよね!」と。

私は、「お言葉ですが夜は蝶々は捕れません。夜捕るのは蛾です。」と答えました。

その答えを聞いて、人事課長がリクルート担当者に一言。「悪い事しそうにないので、良いじゃないの。」

当時私は夜の蝶々の意味が分からず、その生真面目さが評価されたということでした。今でも夜の蝶々は見た事がありますが、捕ったことはありませんので…念のため。

その後人事課長、担当者と私の三人で、社員食堂へ。三人でラーメンを食べていると、人事課長

がまた一言。「僕は翌年一緒に仕事する人以外とは食事しないんだ…」

担当者が私に小声で一言「意味、わかったよね。」
蝶々とラーメンで、私の就職活動はあっけなく終了。

その日の日経新聞夕刊に、あみんの「待つわ」という曲がヒットしているという記事が掲載されていました。就職活動をしている大学生に大人気。人事部からの電話を待ちわびている学生に共感を呼んでいると書かれていました。

その記事を読んだ後、夕食を食べに出かけました。灯のうるむ街を歩いていると、あみんの「待つわ」が聞こえてきました。

① 余談①

現在では信じられない事ですが、MBAというだけで門前払いをする日本のメガバンクのアポ取りに苦労している時です。リクルート活動に苦戦している私を見て、妹が一言。「お兄ちゃん、近くの公園の前にあるソフトバンクに行ってみたら。」

当時ソフトバンクは東京にある拙宅の近くのマンションの一室で、創業したばかりでした。

私はその言葉に、笑い転げました。

今は「私のアドバイスを聞いていたら…」と妹に言われ、返す言葉もない私です。

もっとも幼かった妹は、ソフトバンクを外資系の銀行と思い込んでいたのですが…。MBAに関心を示さなかったメガバンクと私には、時代を見る目が無かったようです。あれから30年以上経ち、私の頭だけは白くなりました。

白髪頭だけでは、CMは無理ですね。白戸君!

◆ エピソードⅡ

15年前の話です。

機械事業以外の事業で、材料不良をだし、お客様に多大なご迷惑をお掛けした時でした。お客様のお怒りは相当なもので、先方の社長様にお詫びに行かなければならない事態になりました。

お客様のところに着くと、社長室に案内されました。部屋に入ると、先方の社長が待ち受けていました。さっそくお詫びを申し上げましたが、依然気まずい雰囲気が…。

深々と頭を下げ再び顔を上げると、仏頂面の社

長の後ろにオオムラサキの写真。恐る恐る、その写真はオオムラサキではと伺うと、先方の社長から「君、わかるかね!」と。



オオムラサキ

そこで、学生時代

の蝶々捕りの話をすると、その社長も同じ趣味で、今も車の中に捕獲用のネットを入れてあると楽しそうに話されていました。それからはクレームの話は忘れ、お互いの蝶々談義を。すっかり意気投合してしまいました。最後は今回のトラブルはもう良いから、今度蝶々を捕りに行こうと言う事になりました。

購買担当者は、社長より小言を言って貰うという算段だったのですが、当てが外れて拍子抜けした様子。

材料不良のトラブルは、蝶々のお蔭で有耶無耶に。以前よりも、深い付き合いになりました。

蝶々に助けられ、蝶々が取り持った縁でした。



ヨット・ディンギー編

◆ エピソードⅢ

大学時代、もうひとつの趣味はヨットでした。

ヨットというと多くの人はクルーザーを思いがちですが、私が乗っていたのはディンギーという小さいボートです。

ヨットを始めた動機は、邪な思惑からです。

大学一年の夏休み、同級生と野尻湖に旅行に。夕方の静かな湖面に、一隻のヨットがアンカーを下していました。



ヨット・ディンギー

バウ(ヨットの先端)には、女性が膝を抱えて座っており、スキッパーの男性はジッとその女性を見つめていました。女性は背中をマストに寄りかかり、思いに耽っていました。

それを岸辺から見ていた私達は、これだ!

ヨットは女性にモテると確信。それからは、大学には行かず江の島や鎌倉材木座海岸に。

① 余談②

今振り返ると、ヨットを趣味にして企業経営に役立ったと思います。

ヨットのスピードが出、姿勢が安定する条件は、向かい風(9時から3時方向の間)です。勿論過度の強風は危険ですが、強い風の方がスピードが出ますし、安定もします。

メインセールとジブが一般的なディンギーでは、スキッパーとクルーの呼吸が重要になります。スキッパーは舵取りをする艇長、クルーはセーリングを補佐する乗員です。

意外にも、追い風順風は不安定で危ない時です。この時、ヨットは余りスピードは出ませんし、乗員がケガをする事があります。ヨットは動力がありませんので、風任せのところがります。

沖に出て風いでしまったら、風が吹くまでひたすら風を待つしかありません。セーリングにおいては、当然乗員の願うような気象条件はほとんどありません。

ある阪神タイガースファン曰く、小さい時からトラキチで人生役立った事は、幼い頃から世の中はままならないと思知られた事だそうです。ヨットも、同じです。

鎌倉に在った合宿所の隣に、社会人のヨット同好会のボートハウスがありました。そのボートハウスのメンバーに、怖そうな社会人がいました。最近の学生は勉強もせず、ヨット三昧と批判的な厳しい視線で私たちを見ていました。

それから四半世紀が経ち、弊社が新しい塗装工場を建設する時お世話になった塗料メーカーのエンジニア部門にその人がいました。

はじめはお互い気付かなかったのですが、食事中に趣味の話になり、お互いヨットが趣味である事が分かりました。セーリングポイントを聞くと、同じ鎌倉材木座海岸。

鎌倉材木座海岸での思い出をいろいろ話しているうちに、あの怖そうな人を思い出しました。

そうです。あの社会人が弊社塗装工場の建設担当エンジニアだったのです。それからは、取引先の人ではなく、同じヨットマンとして寝食を忘れ塗装工場の建設に取り組みました。

結果、今のフジイのものづくりを支えている、時代を先取りした塗装工場が完成しました。

弊社には十分なノウハウが無い中、ヨットに助けられたのです。

ヨットに関して、最後に一言。

ヨットマンとしての私の自慢は、船を沈(ちん)させた経験がない事です。同業業界の皆様のご支援のおかげで、会社も今まで沈(ちん)させずにいます。創業150年を迎えて社員一同頑張りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

Next 15 decades (次なる150年)

フジコーポレーション(株)
森 田 理 恵

はじめに

弊社は今年創業150年を迎えました。
創業150年の行事として、2つの賞に挑戦しました。一つ目は、日経トップリーダー・人づくり大賞、二つ目は日本でいちばん大切にしたい会社大賞です。結果は、昨年は日経トップリーダー・人づくり大賞・優秀賞、今年は日本でいちばん大切にしたい会社大賞・審査委員会特別賞を受賞しました。今回は、この2つの賞について紹介します。

1. 日経トップリーダー・人づくり大賞

日経トップリーダー(日経BP社)創刊30周年を記念して、昨年(2014年)創設されたのが、「日経トップリーダー・人づくり大賞」です。企業経営で大切なことは、人づくりです。人材育成に優れた中小企業を表彰することによって、人づくりの大切さを世間に広く啓蒙したいという日経BP社の思いから、この賞は生まれました。弊社の受賞理由の高齢者雇用と若手社員の育成について説明します。

①高齢者は会社の財産

弊社の最高齢は79歳の女性パート社員です。彼女を筆頭に、工場から営業、事務職まで様々な職域で高齢社員が活躍しています。

また、HPのキャリア募集では「50代・60代の経験者、特に70才まで継続雇用希望者優遇」と高齢者の採用にも力を入れています。高齢社員は会社の財産です。何故ならば、「知恵、技術、ノウハウ、経験の塊」だからです。高齢社員は多くの失敗経験を持ち、そこからものづくりに必要な



毎年創業記念日前日に行われる表彰式後の記念撮影

多くのことを身に付けています。高齢社員が活躍しやすいように、弊社ではソフト(制度)やハード(環境)の両面で様々な工夫を凝らしています。

ソフト面では、60歳の定年後、希望者は全員70歳まで雇用できる継続雇用制度を採用しました。60歳定年前と同じ職やシニアアドバイザー(SA)等、様々な立場で若い社員の育成にあたります。実際は、70歳を過ぎても若い社員の育成等にあたっている社員もいます。現在、70歳以上の高齢社員は2名います。定年後の雇用形態も本人の希望で選ぶことができます。自分の健康状態や家族の事情を考慮し、定年前と同じフルタイム勤務である月給制の「準社員」か、時給制の「パートタイム」を選択できます。「パートタイム」では、出勤する曜日や時間を会社と決めます。

ハード面では、次の様な工夫を凝らしています。工場内の床をフルフラットにしました。これは、高齢者のつまずきや転倒を防ぐためです。電線やガス管等は全て天井に配策しました。あわせて工具類も天井からつるしました。また床に断熱材を使用し、結露防止対策をしています。更に搬送と

組立を一台の台車でできるようにし、重い部品の載せ替え作業等の重労働を軽減しました。このように高齢者でも働きやすく安全な環境を整えています。

②若手社員の育成

若手社員の中には、入社してから大学院(修士や博士)に通学する社員や他企業で長期研修する社員がいます。今も、ドクターの学位取得を目指す社員がいます。その社員は働きながら週3~4日大学院へ通い、この春博士課程後期を終了、博士論文の学会紙への掲載と博士号の授与を待っています。大学院で専攻を決める時の会社からの条件は、現在の事業や仕事に関係ない分野、できればリベラルアートの研究です。目先の利益ではなく、20年、30年後そして150年後を考えてです。国内の他企業へ半年から2年ほど出向する社員もいます。そこで、弊社にはないノウハウや新技術を学べます。弊社に戻ってから、取締役へ成長した社員もいます。高齢社員と若手社員の力が融合することで、思いもよらないことが起きることがあります。それが、「第四回ものづくり日本大賞 優秀賞」です。若手社員の発想から開発していた溶接ロボットが行き詰ったとき、アドバイスくれたのが、高齢社員でした。このアドバイスから溶接ロボットは完成し、農業機械業界では初めて「ものづくり日本大賞優秀賞」を受賞しました。

2. 日本でいちばん大切にしたい会社大賞



日本でいちばん大切にしたい会社大賞表彰式

この賞の審査ポイントとして、企業が大切にすべき項目として以下の5点を挙げています。

1. 従業員とその家族
2. 外注先・仕入先
3. 顧客
4. 地域社会
5. 株主

平成22年から実施され、昨年で第5回目となりました。弊社では、

①家族主義

災害時はOBにも労力の提供などの、支援・救援活動を行っています。また、会社敷地内には、桜の木を植樹し、根元にはOBの名前をいれたプレートが飾ってあります。

②働きやすい工場

高齢者が働きやすいことを前提に行った環境づくりは、男性社員や女性社員にとっても働きやすい工場となっています。これについては、日経BP主催・人づくり大賞審査委員会特別賞受賞の中で説明した通りです。

③様々な人材の活用

フジイのダイバーシティ経営は創業以来の企業文化です。2013年には経済産業省・ダイバーシティ経営企業100選に選ばれました。「会社は社会の縮図」という企業理念の下、女性の活用や、高齢者の雇用延長を行ってきました。2014年には厚生労働省・精神障がい者等雇用促進モデル事業に採択され、8月にモデル事業による雇用を開始しました。本年2015年も、厚生労働省のモデル事業として精神障がい者の職域拡大に取り組んで行きます。更には、障がい者支援施設の支援も行っています。具体的には、障がい者支援施設が製造しているお菓子をお土産にして利用しています。その他にも社員にも協力してもらい、年に数回お菓子の販売をしています。この販売会は好評で、一人で2本、3本のロールケーキを購入している社員もいます。メタボを心配する程、毎回沢山購入する社員もいます。(笑)

3. 最後に

今年で、創業150年をお陰様で迎える事ができました。これからも、社会を支える部品や機械といった「ものづくり」に取り組んで行きたいと思います。そして、Next 15 decades(次なる150年)も続くような企業を目指します。

これからも、末永くよろしくお願いいたします。

